

海外事例視察比較表

比較項目	①ラスベガス	評価	②オーストラリア	評価	③韓国	評価	④マレーシア	評価	⑤ヨーロッパ	評価	「沖縄型コンセプト」との関連評価	
移動及び移動手段	・カジノ施設がメインストリートに集中しており多様な施設へのアクセス利便性が高い。 ・メインストリートではモノレールが利用できる。	◎	・各都市ひとつのオペレーターとなっており、別のカジノ施設へ行く場合移動距離が長い。 ・主に飛行機での移動になる。	△	・直行便もあり韓国までの移動は容易である。 ・国内で施設が点在(ソウル3カ所、釜山2カ所等)している。	△	・ゲンティングループが運営するカジノリゾート1カ所のみ。	△	・現地までの移動(飛行)時間が長い。視察日程において制約条件となる。	×	オーストラリア、ヨーロッパは短期間で多数の事例視察は困難。マレーシアでは施設が1カ所のみ。ラスベガス、韓国は短期間で多くの事例を視察できる。	
施設形態	・複合施設が主であり、エンターテイメントが多岐にわたっている。	◎	・主に複合施設ではあるが、エンターテイメントが少なく、どちらかというと拠点保養型である。	○	・都市型のほか、済州島では拠点保養型があり、内国人用と外国人用に分かれている。	△	・複合施設ではあるが、エンターテイメントが少なく、どちらかというと拠点保養型である。	○	・かつての王侯貴族の社交場としての位置づけが強いものが多い。	×	オーストラリア、マレーシアは一箇所を中心とした滞在形態、ラスベガスは隣接する施設ごとに多様なメニューがあり、消費マーケットを視察できる。韓国、ヨーロッパは比較的小規模である。	
宿泊施設	・主な施設は1,000室以上が殆どで規模が大きい。	○	・全500室前後が主流。 ・都市型であれば全900室の施設がある。	△	・1,000名収容程度と小規模である。	△	・6,118室と大規模である。	○	・比較的小規模である。	△	沖縄県の今後の観光振興の発展性踏まえて、大規模施設を把握する必要がある。	
依存症対策	・カジノ導入は1929年の経済恐慌以降と歴史が長く、様々な事例を踏まえ対策も豊富である。	◎	・カジノ導入は1980年代以降と歴史が比較的浅く、依存症対策の事例が少ない。	△	—	△	—	—	—	△	オーストラリア、韓国、マレーシア、ヨーロッパはギャンブル依存症対策の情報開示が比較的少ない。ラスベガスは関連機関の連携等が構築され比較的事例開示が多い。ラスベガスでは専門機関(GCB等)にて専門家の育成も行っている。	
MICE	・規模は大小様々で1,000人収容以上が殆どで、形態も様々である。 ・ラスベガスコンベンションセンターは約24,700㎡となっており、大規模である。 ・ホテル併設が多い。	◎	・規模は600人収容以下が殆どであり、1,000人収容の大規模施設は都市型のみとなっている。	○	—	△	・コンベンションホールは9,705㎡、最大1,000人規模と平均的である。	×	・映画祭会場に隣接する等の施設がある。	△	ラスベガスでは1,000人以上対応、あらゆる形態、サポート、プランナー(PCO)のいるMICE施設を視察できる。	
ビーチリゾート	・砂漠地であるためビーチリゾートではないが、複合型リゾート的施設に加え、人口湖に隣接するレイクラスベガスがあり、リゾート型空間を形成している。	○	・ダーウィン、タウンズビルに1箇所ずつビーチリゾート方であるが規模が小さい。(ホテル・カジノ併設型であるが、複合型ではない。)	○	—	△	・標高1,700mの高原リゾート。	×	—	△	オーストラリアはビーチリゾート型がある。ラスベガスでは各施設が複合型でテーマ性をもっていることに加え、リゾート的施設を所有するレイクラスベガスがあり、立地条件を感じさせない工夫がある。	
カジノ施設	・主なテーブルゲームとマシンゲームをそろえている。 ・いずれも規模が大きく、カジノ以外にスポーツ観戦系施設やVIPルームも豊富である。	◎	・主なテーブルゲームとマシンゲームをそろえている。 ・テーブル台数は15～350台、マシンゲームは500～2,500台規模。都市型だと規模は大きい。	○	・カウンオンランドのみが複合施設となっており、他施設に関してはホテル併設型となっている。	○	・主なテーブルゲームとマシンゲームをそろえている。	○	・主なテーブルゲームとマシンゲームをそろえている。	○	○	規模や種類の豊富さはラスベガスが突出しており、事例が多い。
アミューズメント	・アトラクション、ミュージカル、ショーなど各施設で多くのメニューが用意されている。 ・多くのテーマパークもみられる。	◎	・アトラクションはないが、ミュージカル、ショーは各施設で用意されている。 ・テーマパーク型がない。	△	—	△	・全天候型テーマパークが併設されている。	△	—	△	ミュージカルやショーのメニューの豊富さはラスベガスが突出しており、事例が多く、テーマパークに関してゲンティンを除いてはみられない。	
ショッピング	・施設内はもちろん周辺施設と隣接しているため店舗が豊富。	◎	・都市型以外では小規模アーケードがある。	△	・ショッピングモールがある。	△	・ショッピングモールがある。	△	・ショッピングモールがある。	△	△	宿泊施設毎にショッピングモールがあり、多くの事例を参考に出来る。また、アウトレットモールの利用も可能であり、選択の幅の広さを参考にできる。
グルメ	・テーマ性をもったレストラン施設が多く併設されており、選択に幅がある。	◎	・ホテルに併設されているダイニングやバーのみである。	○	・ホテルに併設されているダイニングやバーのみである。	○	・ホテルに併設されているダイニングやバーのみである。	○	・ホテルに併設されているダイニングやバーのみである。	○	○	ラスベガスはテーマ性を持ったレストラン、ナイトバー等の施設が多く、他の地域では見られない。
クルーズ	・主要カジノ施設にはないが、周辺にある「レイクラスベガス」において、人口湖にマリーナ施設がある。	○	・ビーチに面した施設ではクルーズ船のターミナルが隣接している。	◎	—	△	・高原リゾートのためなし。	×	—	△	オーストラリアではホテル施設がクルーズ船と隣接していることから、海のメニューの展開を参考にできる。ラスベガスにおいては人口湖において同様の施設がみられる。	
スポーツリゾート	・いずれもプール、スパ、フィットネス施設が併設されている。 ・ゴルフコースがある。	○	・いずれもプール、スパ、フィットネス施設が併設されている。 ・施設によっては乗馬やゴルフができる。	◎	—	△	—	—	—	△	オーストラリアではカジノなどのエンターテイメント以外にエコツーリズム等のメニューも楽しめる。	